

雪

雪のふしぎを知る

雪



気節風の影響で冬は雪が多い札幌市
ちょっと大変
でも、雪は空からのおくりもの
札幌の魅力を語る上で欠かせないもの

それが 雪



優秀賞

雪を降らせるしくみ

雪は、地上から上昇した水蒸気が、
上空で冷やされてできる雪が降って
きます。

水蒸気は、空気中の5%に、つまり空の上
のほうで水の結晶になります。
この結晶に、さらに水蒸気がくっついて
大きくなります。

水蒸気量が増え、下に落ちてきます。
とちよとてけて降ると氷になり、
とけずに降ると雪になります。

姿を変えて地球をめぐる水

とけの結晶が
大きくなって、
とけずに降って
くるのが
雪です。

上空にある0度以下
の雪の中では、氷の粒
(氷晶)と空気が1本道か
いっしょに存在して
いる。

水蒸気もふくむ空気



北海道の年間
降雪量は
126日!! (2004年)

空気に水蒸気が
多くふくまれていると
雪もよくふるんだね。

札幌市の年間降雪量
昭和55年から
平成22年までの
平均値はなんと
506cm!

世界各地の降雪量と人口



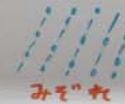
世界の雪が多くふる地域には、
大きな都市はあまりありません。
札幌は、雪がたかさん降る、でも
人々が安心して暮らせる都市なので、
とてもすごいです。

地上の気温で変わる雪の種類

雪の中でできた氷の結晶は、気温によって、さまざまに
雪に変わります。

地上付近の気温が非常に低いと、粗がた雪の結晶のま
まの雪となつて降ります。

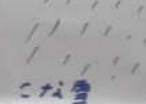
やや気温が低いときは結晶がもう少しくつきあり、ほた人雪となつて降ります。
気温が0℃以上になると、結晶がとけかかち、みぞれとなります。



とけかかちて
みぞれ
みぞれ



結晶がもう少しくつき
ので、雪がまなご
つくりやすい。



さざざたので、
雪がまなごは
つくりにくい。

なぜ日本海側は雪が多いの？

雪雲は山をこえられない
冬に大陸の高気圧がたかちかちたとき、北西の季節風が、
日本にふきつけ、日本海を流れる対馬海流という暖流の上空をわたる間に、
大量の水蒸気もふくんで雪をつくります。その雪が、日本列島の中央にある山脈
を上昇して冷えると、雲の中の氷の結晶がくつきあり、雪となつて降ります。
雪を降させたあと、季節風はふたたびかちかちた冷たい風となり、山脈をこえおちると、
強引な季節風とともに山脈にふつからた雪が水蒸気もふくんだ空気を、
そこで強引に上昇気流となり、積乱雲を発生させ大雪を降させます。
このとき発生する雪を「雪おこし」ともふつこつあります。



作品番号	363			作成者からのコメント
タイトル	雪のふしぎを知る			
学校	札幌市立八軒西小学校	学年	6	気温の低い日に雪の結晶を 観察している時、雪のふしぎ さを知りたくなりました。 観るという行為が好きな わが子、ますます雪が好きに なりました。
名前	財津岳大			